２０２０年（令和２年）　９月２８日　月曜日

デーリー東北　１３面　掲載

猛打さく裂 光星V

青森県 秋季高校野球 最終日

秋季青森県高校野球選手権最終日は27日、弘前市のはるか夢球場で3位決定戦と決勝を行った。決勝では八学光星が八戸西との八戸勢対決を制して、2年ぶり17度目の優勝を飾った。3位決定戦では、弘学聖愛が青森の追い上げをかわした。八学光星、八戸西、弘学聖愛は秋季東北大会（10月14～20日・仙台市民球場ほか）に出場する。組み合わせは10月7日に決まる。（取材班）

決勝

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
八戸西	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
八学光星	0	1	6	4	1	1	0	1	×	14

（八）福島、平内、福島、高間舘―大釜（光）國澤、森―久守

▽本塁打　北浦、伊藤（光）

▽三塁打　下井田（西）國澤（光）▽二塁打　久守、森（光）▽暴投　福島2（西）

▽試合時間　2時間27分（球審＝小松、塁審＝長内、木村均、福永）

【評】八学光星の打線が16安打14点と爆発した。三回は北浦の左越えソロ本塁打、伊藤の左越え満塁本塁打などで一挙6点、その後も相手投手陣の制球の乱れに乗じて攻撃の手を緩めなかった。八戸西は中盤に3点を返したが、投手陣が踏ん張れなかった。

【八戸西―八学光星】3回八学光星2死満塁、伊藤巧将が左越えに満塁本塁打を放ち、6―0とする＝はるか夢

3回北浦ソロ、伊藤満塁弾

相手エースを早々攻略

ハイライト

八学光星の破壊力打線が本領を発揮した。相手3投手に16安打を浴びせ、14得点。特に先の八戸地区予選で手こずった相手エースを完全攻略した。ナインは春夏通算20回の甲子園出場を誇る名門としての意地を見せた。

相手エースの低めへの変化球の見極めがこの試合の課題だった。打線は1巡目こそ1安打に終わったが、三回からの2巡目には豪快に答えを出した。

無死から北浦哲平がソロ本塁打。なおも2安打と西球でつくった2死満塁の好機で、主将の伊藤巧将が2球目の甘いスライダーを左翼芝生席にたたき込んだ。自身公式戦初のグランドスラムは勝利を確信させる一発となった。伊藤は「芯で捉えることだけを考えた。勝負強い打撃ができた」と胸を張った。

四回以降も攻撃の手を緩めず、失点しても、しっかり取り返して八戸西をねじ伏せた。仲井宗基監督は「チームのテーマは『徹底力』だが、選手は徹底してボールを見極める作戦を遂行してくれた。大会を通して成長してくれたのが分かった」とうなずいた。

ただ、今後、レベルの高いチームを相手にセンバツを狙っていく上では守備力強化など課題もある。伊藤は「攻守で投手陣を支えられるようなチームを目指し、しっかり練習していく」と決意を新たにしていた。（上村公稔）

【八戸西】	打	安	点	振	球
相出桐西廣津平村宮下井田島田舘嶋内上崎田	4	1	0	0	0
前貝山谷田嶋内上崎田島田舘義発	4	1	0	0	0
⑥日⑤③⑦1748⑧07H1②犠盗失併残	4	1	0	1	0
	3	1	0	1	0
	3	0	0	1	0
	3	0	0	0	0
	3	1	0	1	0
	3	0	0	0	0
	3	0	0	0	0
	3	0	0	1	0
	3	0	0	0	0
	1	0	0	0	0
	1	0	0	0	0
	1